

令和7年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立吉田小学校

1 自己評価書

教育目標 地域を愛し、はつらつと生きる児童の育成										
基本方針		町内5校の統合により誕生した新しい吉田小学校として、愛媛県教育委員会並びに宇和島市教育委員会の基本方針に基づき、学校教育目標「地域を愛し、はつらつと生きる児童の育成」に努める。各校の伝統を受け継ぎ、学校・家庭・地域が連携した「防災教育」や「ふるさと学習」などの体験学習を重視し、「学びと実践」を繰り返すことにより、地域を愛する児童の育成を目指す。								
本年度重点目標		「豊かな心の醸成」「確かな学力の定着と向上」「たくましい実践力の育成」								
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価					
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期のみ				
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B		B			
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C B					
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C				
			③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C D C	C				
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B		B			
				(成果と課題)						
				②学習のめあては、毎回書くことができたが、振り返りやまとめは、できていない単元があった。振り返りをどのように書けば良いか困る児童がいた。 ②授業への全体での共通理解事項や方向性が徹底できなかった。 ④校内放送での本の紹介など読書活動の充実に向けた取組を行うことができた。 ⑤吉田地区の伝統行事や施設、産業等を調べたことは、地域に対する誇りや愛着を深めることにつながった。 ○統合したことにより、学習場面での取組に差が見られる。補完は必要である。						
	(改善策等)									
	②振り返りの視点を明確にする。(合言葉、分かりやすいもの) ②夏季休業中の研修で方向性を決定し、実践する。 ⑤学習発表会等で保護者へ発信する。 ○全校で取り組むべきこと、学年で統一すること学級裁量とすることの共有を行い、共通認識の基、実践する。									
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価				
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B	B			
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B		B		
				不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B				
いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。				・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B				
③				関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		B B B	B
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C B	C				
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C B					
			(成果と課題)							
①ルールが守れなかったりけじめが付けられなかったりする児童が多い。 ②児童の訴えにはその都度対応した。通信等で相手への気持ちの伝え方について啓発した。 ②不登校児童への対応が難しい。 ③ケース会議の実施、関係機関との連携・対応が円滑にできた。 ④自己肯定感や有用感を高める取組があまりできなかった。 (改善策等)										
①凡事徹底(挨拶・履物・時間のけじめ)する。トイレ等は休み時間に必ず行かせるなど、授業と休み時間の区別を継続指導する。 ②生活アンケートや日々のコミュニケーションを通して、児童の様子を観察し、その都度対応できるように継続支援を行う。 ②保護者との懇談、児童の登校意欲につながるような学習を大切に。家庭とのつながりを絶やさない。 ④学級や全体での賞賛や個人への言葉掛けを今まで以上に行う。										

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	D	D
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	D	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	C	C
				休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	C	C
	(成果と課題) ①スクールバスの送り出しが勤務時間を過ぎてしまい、自分の仕事ができない。休日出勤をせざるを得ない状況が続いた。 ①業務量が多い。今後も続けていくことと割り切って止めることを考え、業務を精選する必要がある。 ②それぞれ多忙すぎて、報告・連絡・相談がうまくいかなかった。 ③スクールサポートスタッフの協力がありがたかった。					
(改善策等) ①バスについては、少しでも時間短縮できるように業者と相談しながら改善策を考える。陸上練習等の下校についてもスクールバスを臨機応変に活用できるように依頼する。 ①学校行事の反省を生かし、来年度の行事や参観日等の精選を検討する。 ②緊急の場合の学年主任招集を適宜行う。職員会、校内研修会のない水曜日の放課後を学年や低・中・高学年の部会日とし、必要な相談や共通理解を図る。全体で共有したいことは、ミライムで共有・職朝時に報告する。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	C	C
				・教師アンケート	C	
				・保護者アンケート	C	
				・地域アンケート		
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	C	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート		
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	C	
				・地域アンケート		
(成果と課題) ①教職員も年に1度は学校運営協議会に参加してはどうか。 ③来校者への名札着用を依頼することが徹底できなかった。						
(改善策等) ①運営協議会の内容により、教職員の参加を依頼する。 ③受付で着用依頼をする。						

＜評価基準＞ A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満